

日本子ども社会学会
第 26 回大会
プログラム

2019 年 6 月 29 日（土）・6 月 30 日（日）

於 東京成徳大学



副田義也社会学作品集(全12巻各A5・上製)

社会・歴史・人間省察等、多岐にわたる豊富な作品群を、12のテーマのもと編纂・収録した必読の作品集刊行開始。

最新刊

第Ⅰ巻 人間論の社会学的方法 第6回配本 二〇一九年五月刊

第Ⅱ巻 死者とのつながり 第1回配本 三〇〇四頁 二〇一七年一月刊 三七〇〇頁

第Ⅲ巻 老いとはなにか 第2回配本 四四〇頁 二〇一七年四月刊 三九〇〇頁

第Ⅳ巻 現代世界の子どもたち 第3回配本 五二二頁 二〇一七年二月刊 四六〇〇頁

第Ⅴ巻 日本文化試論 第4回配本 四二四頁 二〇一八年一〇月刊 四二〇〇頁

第Ⅵ巻 『菊と刀』ふたたび 第5回配本 四四八頁 二〇一九年二月刊 四六〇〇頁

【以下続刊】

社会制御過程の社会学

船橋晴俊著

A5・上製・八二四頁・九六〇〇円

未来社会学序説

森元孝著

四六・上製・二二四頁・二〇〇〇円

ネオリベラル期教育の思想と構造

福田誠治著

A5・上製・六六四頁・六二〇〇円

発達障害支援の社会学

木村祐子著

A5・上製・二四〇頁・三六〇〇円

マナーと作法の社会学

加野芳正編著

四六・並製・二八〇頁・二四〇〇円

マナーと作法の人間学

矢野智司編著

四六・並製・二一六頁・二〇〇〇円

文字を手書きさせる教育

鈴木慶子著

A5・並製・二六四頁・二四〇〇円

文部科学省の解剖

青木栄一編著

A5・上製・三二二頁・三二〇〇円

幹部職員に対する初となるサーベイ、文科省と官邸・他省庁・地方自治体との関係、庁舎内の部署配置・執務室内の座席配置分析といった行政学的分析を通じて、文部省／科技庁の統合後のガバナンスの行方等、文科省の組織構造からアプローチした初の本格的実証研究。

最新刊

いま、教育と教育学を問い直す 教育哲学は何を究明し、何を展望するか
森田尚人・松浦良充編著
A5・上製・三四四頁・三二〇〇円

最新刊

教育的関係の解釈学 刊行即重版！
坂越正樹監修 丸山恭司・山名淳編
A5・上製・二八〇頁・二八〇〇円

最新刊

文字と音声の比較教育文化史研究
添田晴雄著
A5・上製・四〇〇頁・四八〇〇円

学習とパーソナリティ 「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るか
溝上慎一著 「学びと成長の講話シリーズ」 四六・並製・二四八頁・一六〇〇円

アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性
溝上慎一著 「学びと成長の講話シリーズ」 四六・並製・一八四頁・一〇〇〇円

とがびアートプロジェクト 中学生が学校を美術館に変えた
茂木一司編集代表 菊判・並製・二六四頁・二四〇〇円

最新刊

芸術体験の転移効果 最新の科学が明らかにした
リッテルマイヤー著 遠藤孝夫訳 A5・上製・一五二頁・二〇〇〇円

子どもの生きられる空間 生・経験・意味生成
高橋勝著 四六・上製・二七二頁・二四〇〇円

流動する生の自己生成 教育人間学の視界
高橋勝著 四六・上製・二七二頁・二四〇〇円

塾・受験指導の国際比較 (ユネスコ国際教育政策叢書4)
M・ブレイ著 鈴木慎一訳 A5・並製・一五二頁・一五〇〇円

子どもの道草 〔居住福祉ブックレット7〕
水月昭道著 四六・並製・一〇四頁・七〇〇円

日本子ども社会学会 第26回大会 プログラム

1. 期日

2019年6月29日(土)・30日(日)

2. 会場

東京成徳大学 東京キャンパス (十条)

3. 日程

【前日 6月28日(金)】

17時00分～ 19時00分 理事会 (1号館2階中会議室)

【1日目 6月29日(土)】

9時00分～ 受付 (6号館1階 GLOBAL LOUNGE)

9時30分～ 12時00分 研究発表Ⅰ (6号館2階各講義室)

12時00分～ 12時50分 総会 (6号館2階6205) (学会賞授賞式を含む)

12時50分～ 13時40分 昼食

12時50分～ 13時40分 新理事会 (6号館2階6206)

13時40分～ 15時40分 テーマセッション (6号館2階6202・6203)

16時00分～ 17時40分 研究発表Ⅱ (6号館2階各講義室)

18時00分～ 20時00分 懇親会 (6号館1階 GLOBAL LOUNGE)

【2日目 6月30日(日)】

9時00分～ 受付 (6号館1階 GLOBAL LOUNGE)

9時30分～ 12時00分 研究発表Ⅲ (6号館2階各講義室)

12時00分～ 13時30分 昼食

12時00分～ 13時30分 新評議会・新各種委員会 (6号館2階各講義室)

13時30分～ 15時20分 ラウンドテーブル (6号館2階各講義室)

15時40分～ 17時40分 公開シンポジウム (3号館 桜の木ホール)

4. 大会参加費

一般会員：4,000 円

学生会員：2,000 円

臨時(当日)会員：4,000 円

臨時(当日学生)会員：2,000 円

5. 懇親会

6月29日(土) 18:00～20:00

東京成徳大学 6号館1階 GLOBAL LOUNGE

会費 一般会員：4,000 円

学生会員：3,000 円

臨時(当日)会員：4,000 円

臨時(当日学生)会員：3,000 円

6. 発表時間

個人発表：発表 20 分・質疑応答 5 分 共同発表：発表 40 分・質疑応答 10 分

7. 発表取り消し

発表の取り消し、および発表日時の変更は原則として認めていません。

発表の取り消しの場合は、早急にお知らせください。

8. 当日配布資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合は、50 部以上ご用意ください。

大会校でのコピーはできません。

9. 発表に際しての注意

発表の際、プロジェクターは各室に備え付けてあります。パソコンについては、大会校でも用意はしておりますが、ご自身のものを用意していただくことも可能です(すべての教室で、接続ケーブルは RGB・HDMI の両方に対応)。

なお Mac や Surface を使用される場合、HDMI に接続する Mini Display Port 用コネクタを各自でお持ちください。

10. クローク

6 月 29 日(土)は 20:00 まで、30 日(日)は 16:00 まで、6 号館 1 階 6103 教室に用意します。なお、貴重品と傘はお預かりできませんので、各自でお持ちください。

11. 会員控室

6 号館 1 階 6104 教室に、お茶・お菓子などを用意しております。どうぞご利用ください。抜刷・資料交換コーナーもこちらに設けます。

12. 書籍販売

6 号館 1 階 GLOBAL LOUNGE にて書籍販売を行います。

13. 昼食

29 日(土)は、1 号館 1 階のカフェテリアが営業しております(11 時～14 時)。

また最寄りの十条駅から大学までの間に、コンビニエンスストアが 2 軒、十条駅近辺には飲食店が多数ありますので、そちらをご利用ください。

14. 大会本部

6 号館 1 階 6102 教室に設けています。

15. 大会実行委員会連絡先

日本子ども社会学会 第26回大会実行委員会

〒114-0033 東京都北区十条台 1-7-13 東京成徳大学子ども学部内

E-mail : kosha26@tsu.ac.jp

※ 要旨集録の配布について

日本子ども社会学会ホームページから、PDF ファイルをダウンロードできるようにする予定です。公開は6月21日（金）頃を予定しております。また大会当日も要旨集録を配布いたします。

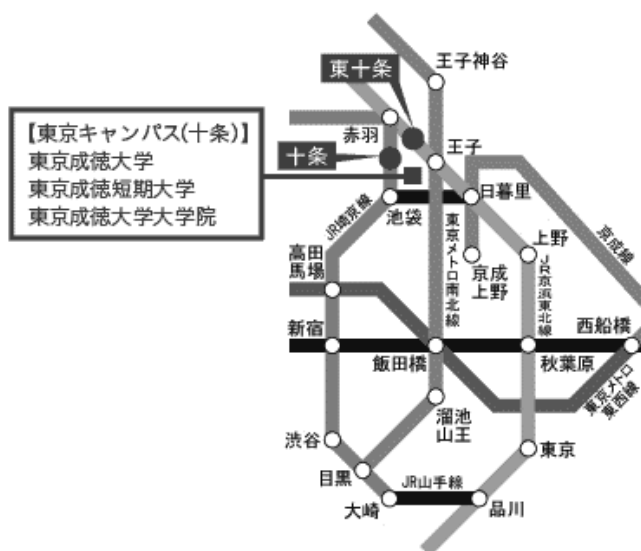
東京成徳大学 東京キャンパス（十条）へのアクセス

【最寄駅（十条駅）からのアクセス】

- JR 埼京線「十条駅」南口下車 徒歩 5 分



【最寄駅（十条駅）への交通アクセス】



■徒歩5分のJR埼京線「十条」駅へは

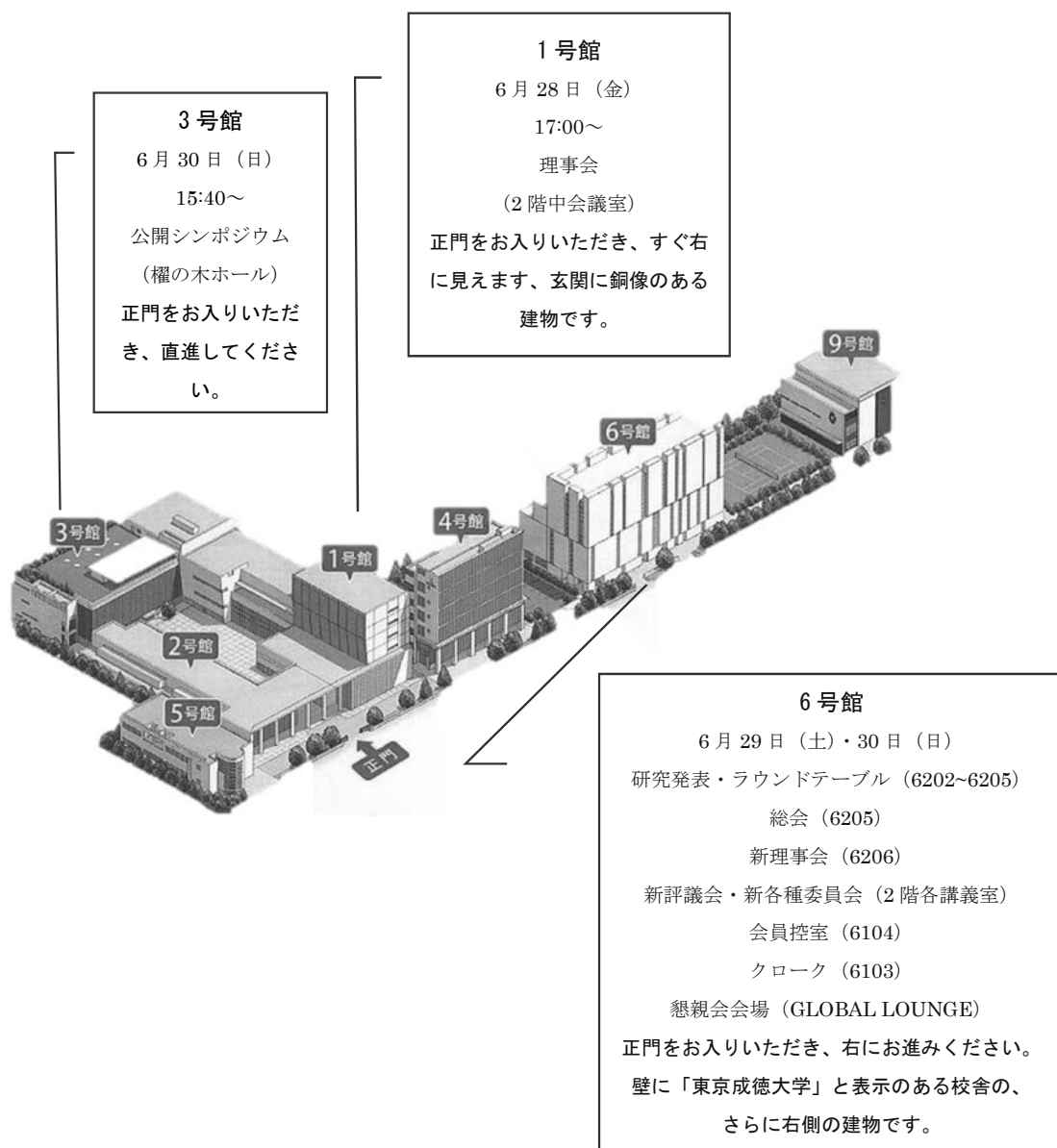
池袋駅 から 5分 (JR埼京線利用)

新宿駅 から 10分 (JR埼京線利用)

渋谷駅 から 16分 (JR埼京線利用)

大宮駅 から 21分 (JR埼京線利用)

キャンパスマップ



※東京成徳大学 東京成徳短期大学
大学案内および大学HP (<http://www.tsu.ac.jp/>) より

研究発表Ⅰ

2019年6月29日（土）9時30分～12時00分
6202 教室

Ⅰ－１ 【 保育者の養成 】

司会 上田 敏丈（名古屋市立大学）

9時30分～9時55分

保育内容「環境」に繋がる絵本による言葉指導法

早川 礎子（小田原短期大学）

9時55分～10時45分

保育実習における効果的な学生サポートについての考察

○福田 真奈（横浜創英大学）

○長谷川 直子（横浜創英大学）

10時45分～11時10分

施設実習を通じた成果と課題に関する一考察

廣井 雄一（國學院大學）

11時10分～11時35分

新任保育者の育成における先輩保育者の意識変容

濱名 潔（認定こども園 武庫愛の園幼稚園）

11時35分～12時00分

総括討論

研究発表 I

2019 年 6 月 29 日（土）9 時 30 分～12 時 00 分
6203 教室

I－2 【 生徒指導・支援 】

司会 久保田 真功（関西学院大学）

9 時 30 分～9 時 55 分

なぜ「ほめる・認める生徒指導」は行われるのか
－小学校教員へのインタビューをもとに－

伊藤 秀樹（東京学芸大学）

9 時 55 分～10 時 20 分

ローカル・メタファーを用いた生徒指導対象者の発見＝認識過程

原田 拓馬（活水女子大学）

10 時 20 分～11 時 10 分

地方低ランク高校における生徒支援の現状と課題（1）
－高知県における 3 年間のパネル調査を中心に－

○古賀 正義（中央大学）

○西本 佳代（香川大学）

11 時 10 分～11 時 35 分

中学生、高校生の女子が母親を亡くすということ

臼田 明子（昭和女子大学）

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表 I

2019 年 6 月 29 日（土）9 時 30 分～12 時 00 分
6204 教室

I－3 【 校種間・地域連携 】

司会 高橋 靖幸（新潟県立大学）

9 時 30 分～9 時 55 分

小学校でのある町内会の餅つきがもつ意味
－小学校とのやりとりから気づかされたこととして－

金澤 妙子（大東文化大学）

9 時 55 分～10 時 20 分

小学校教育における地域連携を再考する
－共生社会に必要な思考の深まりに着目して－

渡部 春菜（愛媛大学大学院）

10 時 20 分～11 時 10 分

地方の子どもたちの自然・社会体験と、資質・態度等との関連に関する一考察
－岩手県盛岡市の事例－

○渡部 芳栄（岩手県立大学）

○白旗 希実子（東北公益文科大学）

石井 美和（東北文教大学短期大学部）

11 時 10 分～11 時 35 分

幼保小連携の実際と幼小・保小接続の課題
－山形県H市教育委員会の取組から－

奥山 優佳（東北文教大学短期大学部）

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表 I

2019 年 6 月 29 日（土）9 時 30 分～12 時 00 分
6205 教室

I-4 【 子どもとメディア 】

司会 鵜野 祐介（立命館大学）

9 時 30 分～9 時 55 分

絵本に関する歴史記述のメタ研究の試み
ー心理学史的記述の現状・課題・展望を中心にー

若林 陽子（東京大学大学院）

9 時 55 分～10 時 20 分

戦後少女雑誌編集方針の転換と模索
ー『少女』（光文社）および『少女ロマンス』（明々社）を中心にー

田中 卓也（静岡産業大学）

10 時 20 分～10 時 45 分

絵雑誌『コドモノクニ』に見る国際性
ー詩・童謡・童話に着目してー

和田 真由美（姫路大学）

10 時 45 分～11 時 10 分

テレビ時代の幼児向け音楽番組を再考する
ー『なかよしリズム』（1966 年-1987 年）を事例としてー

葉口 英子（ノートルダム清心女子大学）

11 時 10 分～11 時 35 分

『窓ぎわのトットちゃん』と『いたずら者馬小跳』の比較研究
ーアイデアとしての子ども・家庭・学校・社会ー

盧 静陽（立命館大学大学院）

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

子ども社会をフィールドワークする

【企画趣旨】

現在、多くの研究領域で、フィールドワークに基づいた研究が行われている。当事者の生活に着目し、その全体像に迫ることで得られる知見は数多い。しかし、フィールドワークの手続きや具体的な方法は一般化しにくく、「入ってみたいとわからない」ことも多い。これは想定しなかった発見を導く一方、調査への期待や倫理観に関する研究者とフィールドの人々とのズレを生じさせるおそれもある。これらの点を考えるだけでも、フィールドワークはさまざまなリスクを内包しているといえる。特に子どもを対象としたフィールドワークは、子どもではなく大人（保護者や教職員等）の同意によって調査がなされることも多く、独自の難しさがある。大人である調査者が、対象とする「子ども」をどのように捉え、子どもとどのように向き合い、どのような関係の下で調査を行っているかもまた、調査の成果に少なからず影響を及ぼす。

こうしたフィールドワークの可能性と難しさに対する議論を進めるうえでは、研究者がフィールドワークを「どのように実施しているのか」という経験知を蓄積させ、その手続きと方法の基礎に関する理解を共有し、議論を深めていくことが重要である。

以上の関心により、本テーマセッションでは、国内外のコミュニティや学校、福祉施設などで子どもを対象にフィールドワークを実践している登壇者の経験をもとに、子どもを対象としたフィールドワークについて考えたい。具体的には、①調査倫理、②ファーストコンタクトの手続き、③フィールドワークの方法論という観点から、登壇者および参加者とともに学際的議論を展開し、フィールドワークの知見を深めたい。

（担当委員：南出和余・山口季音）

【話題提供】

針塚 瑞樹（別府大学）

「相互行為的な実践としてのフィールドワーク

ーインド、ストリートチルドレンを対象とした調査を通してー」

金南 咲季（愛知淑徳大学）

「学校と地域の関係性を記述する

ー社会調査における対象・方法・表象をめぐる諸論点ー」

山口 季音（至誠館大学・研究交流委員会委員）

「子どもと調査者の関係形成の諸相ー児童養護施設での調査経験からー」

【ファシリテーター】

南出 和余（神戸女学院大学・研究交流委員会委員）

保育者養成と子ども理解

【企画趣旨】

「子ども理解」という概念は、現代の保育者養成において重要な規範として機能している。しかしながら、その概念が重要視され自明視されればされるほど、それが実際に保育者養成の現場においてどのように理解され、使用され、機能しているのかは不可視になってしまう。たとえば、学校種間、学問分野間、保育者養成と教員養成との間、保育実践者と保育者養成者との間、学生に対する教育と現職に対する研修との間などで、もしかしたらその位置づけや機能は異なるのかもしれない。改めて、子ども理解という概念を様々な立場から問い直すことは、保育者養成の在り方を考える上でも、子ども社会学会にとっても重要な試みといえるだろう。

そこで本テーマセッションでは、子ども理解をキーワードとして、現代の保育者養成の課題や今後の在り方について議論することとした。日本子ども社会学会には、大学、短期大学、専門学校と異なる学校種に籍を置き保育者養成や保育者研修に携わる会員が多数いる。また、その学問的バックグラウンドも、教育学、教育社会学、心理学、保育学など様々である。こうした本学会の学際性と独自性をいかして、子ども理解を導きの糸としながら、現代の保育者養成の課題や今後の在り方について議論・交流していきたいと考える。保育者養成に携わる会員のみならず、子ども理解に興味・関心のある方々とも学術交流できれば幸いである。

（担当委員：東野充成・山瀬範子）

【話題提供】

片山 悠樹（愛知教育大学）

「『子ども理解』と保育者としてのキャリア展望」

山瀬 範子（國學院大學・研究交流委員会委員）

「大学における保育者養成と子ども理解」

都島 梨紗（岡山県立大学）・上地 香杜（名古屋大学大学院）

「専門学校における実習指導」

神長 美津子（國學院大學）

「現職研修における子ども理解」

【ファシリテーター】

東野 充成（九州工業大学・研究交流委員会委員）

研究発表Ⅱ

2019年6月29日（土）16時00分～17時40分

6202 教室

Ⅱ－１ 【 教育方法 】

司会 伊藤 秀樹（東京学芸大学）

16時00分～16時25分

「琳派」関連作品鑑賞後、振り返り学習での記述を中心に
中学生の学び、あるいは成長について考察する

由良 知彦（京都市立嵯峨中学校）

16時25分～16時50分

農業教育における人格形成について

岩下 猛（熊本県立菊池農業高等学校）

16時50分～17時15分

コーチングによる人間関係論授業効果

鳥羽 きよ子（ハートランドしぎさん看護専門学校）

17時15分～17時40分

総括討論

研究発表Ⅱ

2019年6月29日（土）16時00分～17時40分
6203 教室

Ⅱ－2 【 保育とカリキュラム 】

司会 神長 美津子（國學院大學）

16時00分～16時25分

幼児の遊びを阻害する要因に関する研究（Ⅳ）
－幼稚園5歳児クラスにおける保育記録から－

高橋 公子（奥州市立南都田幼稚園）

16時25分～16時50分

E S Dを視点とした保育計画に関する研究
－保育園におけるE S D実践を通して－

後藤 由美（愛知みずほ短期大学）

16時50分～17時15分

コンピテンシーベースの能力観によるカリキュラム構築に関する一考察
－幼児教育におけるコンピテンシー・ベース・カリキュラム－

小林 みどり（兵庫大学）

17時15分～17時40分

総括討論

研究発表Ⅱ

2019年6月29日（土）16時00分～17時40分
6204 教室

Ⅱ－3 【 子どもと相互行為 】

司会 池田 曜子（流通科学大学）

16時00分～16時25分

子ども間の相互行為を通じた学習規律の学習過程

笹屋 孝允（三重大学）

16時25分～16時50分

生徒たちの学内活動に関する相互行為分析

大西 未希（東京大学大学院）

16時50分～17時15分

「子どもの相互行為能力」研究の現在と課題

粕谷 圭佑（立教大学大学院）

17時15分～17時40分

総括討論

研究発表Ⅱ

2019年6月29日（土）16時00分～17時40分
6205 教室

Ⅱ－4 【 多様なニーズを持つ子ども 】

司会 土屋 敦（徳島大学）

16時00分～16時25分

子どもにとっての理想の「親」像の形成
－施設内の子ども間格差に着目して－

三品 拓人（大阪大学大学院）

16時25分～16時50分

児童養護施設の家庭支援における職員の保護者理解

山口 季音（至誠館大学）

16時50分～17時15分

新聞報道における「発達障害」の概念分析
－教師・保護者・発達障害児の振る舞いに関する概念の使用の変化に着目して－

松浦 加奈子（一橋大学大学院）

17時15分～17時40分

総括討論

研究発表Ⅲ

2019年6月30日（日）9時30分～12時00分

6202 教室

Ⅲ－１ 【 保育者の実践知・ストラテジー 】

司会 香曾我部 琢（宮城教育大学）

9時30分～9時55分

なぜ保育士としての私は乳児の排泄の自立を楽しむことができるのか？
－大人の固定観念を超えた「発見」－

○水野 佳津子（佼成育子園）
中坪 史典（広島大学）

9時55分～10時20分

中華系幼稚園・保育所における多文化状況と保育者の実践
－保育者ストラテジーの観点から－

喜始 照宣（園田学園女子大学）

10時20分～10時45分

森の探検隊スタッフは子どもたちの気づきをどのように支えているのか

○福島 真吾（スポーツメディア株式会社東雲スイミングクラブ）
江田 理英（スポーツメディア株式会社東雲スイミングクラブ）
淀澤 真帆（広島大学大学院）

10時45分～11時10分

放課後児童クラブにおける「見守る」とは何か？
－放課後児童支援員の「見守る」と「第二の家庭」というストラテジー－

○中田 周作（中国学園大学）
上田 敏丈（名古屋市立大学）
肥田 武（一宮研伸大学）
中坪 史典（広島大学）

11 時 10 分～11 時 35 分

子どもの情緒を安定に導く一時預かり事業担当保育者の実践的知識
ーリー・ショーマンの「知識基礎」カテゴリーに着目してー

加藤 望（愛知みずほ短期大学）

11 時 35 分～12 時 00 分

総括討論

研究発表Ⅲ

2019年6月30日（日）9時30分～12時00分
6203 教室

Ⅲ－2 【 保育・教育と環境 】

司会 小玉 亮子（お茶の水女子大学）

9時30分～9時55分

帰りの通園バスは子どもにとってどのような場所であるか

境 愛一郎（宮城学院女子大学）

9時55分～10時20分

入園時期における幼稚園3歳児保育室の物的環境
－登園時の環境構成に着目して－

淀澤 真帆（広島大学大学院）

10時20分～10時45分

保育室における環境の一つとしてのICT機器の活用可能性

○富山 大士（こども教育宝仙大学）
二宮 祐子（東京女子体育大学・短期大学）

10時45分～11時10分

保育支援システム導入をめぐる保育実践現場の意識

○二宮 祐子（東京女子体育大学・短期大学）
富山 大士（こども教育宝仙大学）

11時10分～12時00分

総括討論

研究発表Ⅲ

2019年6月30日（日）9時30分～12時00分

6204 教室

Ⅲ－3 【 子育て・若年層への支援 】

司会 田中 理絵（山口大学）

9時30分～9時55分

訪問型子育て支援「ホームスタート」利用者の変容プロセス
－母親たちの語りの分析を通して－

○加藤 直子（日本女子大学 学術研究員）
請川 滋大（日本女子大学）

9時55分～10時20分

「子育ての社会化」研究における子どもの育ちへの視点

山本 由紀子（太成学院大学）

10時20分～10時45分

保育者の職の継続（Ⅳ）
－育児休業取得者の仕事と家庭の両立における葛藤に着目して－

中井 雅子（十文字学園女子大学）

10時45分～11時10分

親になる過程として
－10代で出産した母親を中心に－

梅原 佐知子（東京都立浅草高等学校）

11時10分～11時35分

若年女性の性周期における心理社会面の変化とメンタルケアに関する研究

石原 二三代（大阪城南女子短期大学）

11時35分～12時00分

総括討論

研究発表Ⅲ

2019 年 6 月 30 日（日）9 時 30 分～12 時 00 分

6205 教室

Ⅲ－4 【 教育格差 】

司会 前馬 優策（大阪大学）

9 時 30 分～9 時 55 分

就学前における認知スキルと社会情動的スキルの関連

大久保 心（慶應義塾大学大学院・日本学術振興会特別研究員）

9 時 55 分～10 時 45 分

学力調査の及ぼした影響に関する研究（3）

－沖縄・静岡の状況から－

○西本 裕輝（琉球大学）

○馬居 政幸（静岡大学（名）・馬居教育調査研究所）

望月 重信（明治学院大学（名））

角替 弘規（静岡県立大学）

遠藤 宏美（宮崎大学）

10 時 45 分～11 時 10 分

高校における学習意識・行動の分化はどこから生じるか

－高 1・高 3 の 2 時点データを用いた実証検討－

山口 泰史（東京大学）

11 時 10 分～12 時 00 分

総括討論

ラウンドテーブルⅠ

2019年6月30日（日）13時30分～15時20分

6202 教室

テーマ

子どもの仲間集団のダイナミクスを探る

ーアドラー夫妻『ピア・パワー』書評セッションを通してー

1) コーディネーター

東野 充成（九州工業大学）

2) 司会者

多賀 太（関西大学）

3) 提案者

住田 正樹（九州大学(名)・放送大学(名)）

東野 充成（九州工業大学）

佐々木 正徳（長崎外国語大学）

内容

子どもの仲間集団は「子ども社会」そのものであり、子どもの発達・社会化や子どもをめぐる問題を理解するうえで重要な対象であるが、日本ではいまだ十分にその研究が深められているとはいいがたい。

そうしたなか、2017年に『ピア・パワー—子どもの仲間集団の社会学』（パトリシア・A. アドラー&ピーター・アドラー著、住田正樹監訳、九州大学出版会）が刊行された。本書は、8歳から12歳までの子どもたちの仲間の世界を8年間にわたって参与観察した研究の成果をまとめたものであり、子ども同士の間での人気や序列、友人関係、異性関係やジェンダー形成など、様々な子どもをめぐる争点に示唆を与えてくれる好著である。

本ラウンドテーブルでは、翻訳者らが本書の内容を簡単に紹介した後、本書が子ども社会研究に与える様々な示唆や子どもの仲間集団研究の今後の可能性についてフロアの参加者とともに議論したい。

（本書をまだお読みになっていない方も、どうぞご遠慮なくご参加ください。）

ラウンドテーブルⅡ

2019年6月30日（日）13時30分～15時20分

6203 教室

テーマ

子ども文化論テキストの内容分析と課題、方向性の検討をめぐって

1) コーディネーター

田中 卓也（静岡産業大学）

2) 司会

和田 真由美（姫路大学）

3) 登壇者

田中 卓也（静岡産業大学）

橋爪 けい子（浜松学院大学短期大学部）

伊藤 恵里子（千葉明德短期大学）

木本 有香（同朋大学）

内容

本ラウンドテーブルでは、多くの保育者養成校において講義されている「子ども文化論」（「こども文化論」・「児童文化（論）」・「児童文学論」・「こども文学論」など）における内容の分析および考察を行い、その内容の特徴を見出すものである。一般公開している「シラバス」なども参考に持ちながら、より詳細に分析するものである。また子ども文化論の講義の位置づけ、他の講義や演習、実習との関連についても明らかにしたいと考えている。

ラウンドテーブルⅢ

2019年6月30日（日）13時30分～15時20分

6204 教室

テーマ

学力調査 10 年の影響から問い直す新学習指導要領の可能性 －2030 年問題における公教育制度再構築の課題に挑む－

1) コーディネーター

西本 裕輝（琉球大学）

望月 重信（明治学院大学（名））

馬居 政幸（静岡大学（名）・馬居教育調査研究所）

2) 司会

西本 裕輝（琉球大学）

3) 提案者・討論者

濱田 純（秋田大学）

藤田 由美子（福岡大学）

角替 弘規（静岡県立大学）

遠藤 宏美（宮崎大学）

島田 桂吾（静岡大学）

米津 英雄（富士宮市立貴船小学校）

新村 弘道（静岡市立竜南小学校）

渡部 和則（秋田市立金足西小学校）

内容

我々は第 24 回大会において、「新学習指導要領と子ども子育て支援制度の課題と可能性－人口減少時代における公教育制度再構築の視座を求めて－」をテーマにラウンドテーブルに参加し、「実施主体として自治体行政」「人口減少先進地域での小規模義務教育学校」「外国にルーツをもつ子どもたちの学び」「公教育制度に埋め込まれたジェンダーバイアス」という 4 種の観点から問題提起を試みた。

第 26 回大会のラウンドテーブルにおいては、その成果を更に高めるために、新学習指導要領実施時間が 2030 年（団塊の世代が 80 歳代）を社会制度改変の区切りとみなす 2030 年問題に重なることに注目する。

年少人口減、老年人口増、生産年齢人口減＋女性・高齢者・国籍を異にする人たちの労働力化が同時進行する社会を生きる場とする人たちへの学びと教を担う公教育制度のあるべき姿とその実現への課題とは何か。この問いに、小中高の教育現場を担う教職員との協働により、学力調査 10 年の学校教育への影響を尺度において、新学習指導要領実践化の可能性（適否・可否・功罪）を再評価することから応えたい。

ラウンドテーブルⅣ

2019年6月30日（日）13時30分～15時20分

6205 教室

テーマ

児童相談所をめぐる困難と葛藤、新たな可能性 —子どものための連携とは何か—

1) コーディネーター・司会

坪井 瞳（東京成徳大学）

2) 提案者

野田 正人（立命館大学）

西本 佳代（香川大学）

藤間 公太（国立社会保障・人口問題研究所）

原田 旬哉（園田学園女子大学）

泉田 信行（国立社会保障・人口問題研究所）

山口 季音（至誠館大学）

坪井 瞳（東京成徳大学）

内容

近年、児童虐待への社会的関心が非常に高まっており、政策もめまぐるしく展開している。児童虐待死亡事例などを受け、特別養子の年齢引き上げを含む制度の見直し案が提出され、また 2019 年 3 月には、親権者らによる体罰禁止を明記するなどした児童虐待防止法と児童福祉法の改正案も閣議決定された。

「社会問題の構築主義」が指摘してきたように、児童虐待をめぐる動きには、子どもや家族をめぐる社会規範が色濃く反映される（上野 1996）。児童相談業務の現場においては、「ある行為を虐待と見なすか否か」、「通告された親子を分離するか否か」、「あるケースに対しどのような内外連携の支援体制をとる必要があるか」といった判断が日常的になされている。そうした判断に子どもやその育ちについての規範が影響していることは想像に難くない。

平成 29 年度より国立社会保障・人口問題研究所の一般会計プロジェクトとしてスタートした、『一億総活躍社会』実現にむけた総合的研究において、われわれは児童相談所が保管する虐待相談記録を分析する機会を得た。この機会は、きわめて新規性が高いデータを分析したという学術的なものにとどまらない。随所で現場との協議を行って研究プロジェクトを運営してきたことは、現場と研究者が連携して児童虐待問題を考え、支援やそれを提供するための制度的基盤の改善につなげていくための方法論を提供することにもつながりうるだろう。

本ラウンドテーブルでは、上記プロジェクトメンバー7名が、児童相談所が保管する虐待相談記録をそれぞれの専門とする観点（社会福祉学・社会学・経済学・教育学）から検討を行った結果の一部について報告を行う。それらを踏まえた上で、児童相談所をめぐる困難と

葛藤などの現状を確認し、子どものための連携とは何か、そこにはどのような可能性を見いだすことができるのかということについてフロアと議論を深めていきたい。

【付記】本ラウンドテーブルは、国立社会保障・人口問題研究所『『一億総活躍社会実現』に向けた総合的研究―すべての子どもの未来を築く子ども／子育て支援に向けた研究―』の成果の一部である。

2019年6月30日（日）15時40分～17時40分

3号館 櫓の木ホール

公開シンポジウム

「子ども」ではなく「子どもたち」を問う

—学校・きょうだい・悪態—

コーディネーター・司会

加藤 理(文教大学)

登壇者

田中 理絵(山口大学)

元主 浩一(福岡市教育センター)

磯崎 三喜年(国際基督教大学)

鶴野 祐介(立命館大学)

指定討論者

石黒 万里子(東京成徳大学)

麻生 武(奈良女子大学)

内容

子どもたちは、生活の中で接触するさまざまな文化を身体化し自己形成を続けていく。子どもの成長・発達について、そのモデルや原理を迫りながら、「子ども観」や「子どもらしさ」について研究することはさまざまに深められてきた。『子ども社会研究』22～25号の特集「子どもらしさへのアプローチ」は、子ども社会学会会員が取り組んできた子どもという存在についての研究の成果を示している。

子どもはどのような存在なのかを問う「子ども観」の研究は、石川謙『我が国における児童観の発達』や横須賀薫『児童観の展開』、本田和子『異文化としての子ども』など多数の研究結果が発表されてきた。だが、「子ども観」だけでなく、「子どもたち観」にも視野を広げる必要がある。子どもという存在にとどまらず、子ども社会を問う本学会にとっても、「子

ども観」と同時に「子どもたち観」は大きな研究テーマとなろう。

これまでの研究では、こうした視点がやや希薄であったと言わざるを得ない。一例をあげると、古田足日が 1982 年に発表した「子どもと文化」は、文化との関係で子どもが成長・発達することを原理的に追求しようとした意欲的な論考であった。だが、個人の育ちについて考察した「子どもと文化」では、一人の子どもの育ちについての考察は深められているが、文化体験を通して子どもが育つ際に、他者との関係をどのように考えなければいけないか、あるいは文化を身体化した存在としての子どもが、「子どもたち」になった時にどのような育ち合いをするのか、という点への言及が希薄であることは否めない。個人を形成する原風景は個人の体験でありながらも、誰かと共有した体験が原風景へと昇華している場合が多い。文化を視点にしながら考えた「個」としての子どもの育ちに、「他者」の存在の関与を新たな視点として子どもの育ちについて考えていくことは重要な視点となろう。

そこで本シンポジウムでは、子ども集団にみる子どもたち観、子ども文化生成と伝承にみる子どもたち観、兄弟関係の中での子どもたち観、そして新学習指導要領で重視されている主体的で対話的で深い学びを視野に入れた子どもたち観について、それぞれの登壇者から報告していただき子どもたち観について議論を深めたい。

日本子ども社会学会 第26回大会実行委員会

実行委員 永井 聖二（東京成徳大学）
埴 和明（東京成徳大学）
小原由美子（東京成徳大学）
三枝 恵子（東京成徳大学）
加藤 理（文教大学）
味府 美香（東京成徳大学）
青木 研作（東京成徳大学）
岡村 義継（東京成徳大学）
石黒万里子（東京成徳大学）○委員長
坪井 瞳（東京成徳大学）○副委員長

日本子ども社会学会 第26回大会 プログラム

発行日 2019年5月15日

編集 日本子ども社会学会第26回大会実行委員会

〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13 東京成徳大学子ども学部内

発行 日本子ども社会学会事務局

〒152-0004 東京都目黒区鷹番三丁目6番1号 内外出版株式会社内

ピア・パワー 子どもの仲間集団の社会学

P. A. アドラー & P. アドラー

住田正樹 監訳

A5判 454頁 4,000円

子どもたちは戸惑い揺れ動きながらも仲間集団を通して成長していく。著者夫妻自らの子を含む子どもたちの姿を8年間に及ぶ調査観察により解き明かした、子ども社会学不朽の名著。待望の翻訳。

子ども社会学の現在

いじめ・問題行動・育児不安の構造

住田正樹

A5判 328頁 3,800円

リトルリーグの社会学

前青年期のサブカルチャー

GA. ファイン/住田正樹 監訳

A5判 360頁 3,800円

子どもたちの「居場所」と対人的世界の現在

住田正樹・南 博文 編

A5判 476頁 6,000円

思考する歴史教育への挑戦

暗記型か、思考型か、揺れるアメリカ

川上具美

A5判 340頁 3,600円

保育実践へのエコロジカル・アプローチ

アフーダンス理論で世界と出会う

〈新刊〉

山本一成

A5判 284頁 4,500円

保育者と子どもを取り巻く環境は、未だ出会われざる側面を隠しつつそこにある。心理学では定着したアフーダンス理論を教育や保育領域に取り込み、「ありふれた日常」がもつ豊かな保育の可能性を掘り起こす。

子どものワークショップと体験理解

感性的な視点からの実践研究のアプローチ

笠原広一

A5判 250頁 2,800円

教育社会学 第三のソリューション

A.H.ハルゼー/H.ローダー/P.ブラウン/AS.ウェルズ 編

住田正樹・秋永雄一・吉本圭一 編訳

A5判 672頁 8,700円

地域社会と教育

子どもの発達と地域社会

住田正樹

A5判 398頁 5,700円

移民とドイツ社会をつなぐ教育支援

異文化間教育の視点から

伊藤亜希子

A5判 274頁 4,200円

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34九州大学産学官連携イノベーションプラザ 305

TEL: 092-833-9150 FAX: 092-833-9160 《価格税別》

九州大学出版会

第48回 教育展望セミナー

■大会主題：これからの時代に向けた教育の改革と創造
—AIの時代を視野に入れた教師力—

■日程：2019年8月5日(月)、6日(火)

【8月5日(月) 全体会】

・教育講演：福岡伸一（青山学院大学教授）

・パネルディスカッション：「AIやソサエティ5.0の時代を踏まえて学校はどう変わるべきか」

【8月6日(火) 分科会】

・第1分科会（経営部会）

テーマ1：カリキュラム・マネジメント力を高める人材育成の在り方

テーマ2：カリキュラム・マネジメントを充実させる業務改善の在り方

・第2分科会（小学校部会）

テーマ3：主体的な学びを深める個に応じた学習指導の工夫

テーマ4：集団での対話的な学びを深める学習指導の工夫

・第3分科会（中学校部会）

テーマ5：集団での対話的な学びを深める学習指導の工夫

テーマ6：主体的な学びを深める個に応じた学習指導の工夫

■会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

（JR・地下鉄市ヶ谷駅下車、徒歩2分）

■参加費

2日間：14,400円、1日のみ：9,300円（含資料代）

■お申し込み

ご参加には事前のお申し込みが必要です。ご希望の方は当研究所まで、開催案内をご請求ください。

月刊「教育展望」

毎月1日発行
A5判、448円＋税

2019年 特集

6月号 新学習指導要領における学習評価について

5月号 主体的・対話的で深い学びが授業を変える

4月号 カリキュラム・マネジメントが学校を変える

3月号 資質・能力を伸ばす評価活動

1・2月号 『教育展望』創刊700号を語る

2018年 特集

12月号 第47回教育展望セミナー 分科会報告

11月号 第47回教育展望セミナー 全体会報告

10月号 教育の情報化の動向と課題

9月号 巨大地震に備える防災教育の視点

7・8月号 改めて問う、深い学びとは

6月号 学校における働き方改革を探る

5月号 子どものいじめ・自殺問題と学校教育

4月号 新しい学校文化の創造

3月号 新学習指導要領から見える新しい授業像

「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料
A5判、2,381円＋税

No.50（第47回教育展望セミナー）2018年7月発行、124ページ

資質・能力を育成する教育課程の編成と実施Ⅱ

No.49（第46回教育展望セミナー）2017年7月発行、124ページ

資質・能力を育成する教育課程の編成と実施

No.48（第45回教育展望セミナー）2016年7月発行、124ページ

これからの時代に求められる資質・能力～学校教育の質を問う～

一般財団法人 教育調査研究所

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

TEL: 03-3238-6974 FAX: 03-3238-6975

E-mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

中央教育研究所は、教育の組織・内容・方法等について、基本的、実証的な調査研究を行い、教育科学の推進、教育現場の発展に寄与することを目的とした研究所です。現在、以下の4つの公益目的事業を中心に活動しています。

1. シンポジウム事業

今日的な教育課題に関するシンポジウム、セミナーを全国各地で展開。
東日本大震災避難児童生徒の支援活動も継続。

3. 教科書研究への助成事業

若手研究者を対象に、教科書に関する調査研究を公募、奨励金を交付して助成。

2. 教育に関する調査研究事業

小中高大を接続する言語教育の在り方、教育の情報化、人口減少問題と学校教育、特別支援教育等々に関する研究や学校現場の教育調査および分析活動等のプロジェクトを展開。

4. 教育賞の論文審査事業

東書教育賞を共催し、教育実践論文の審査と論文集の発行を担当。

〒114-0004 東京都北区堀船 2-17-1
Tel. 03-5390-7488 Fax. 03-5390-7489

ホームページ—<http://www.chu-ken.jp/>
Eメール—chu-ken@nifty.com

ダイバーシティ時代の 教育の原理

多様性と新たなつながりの地平へ
藤田由美子・谷田川ルミ 編著

「ジェンダー」や「ダイバーシティ」(多様性)の視点から編まれた教育の理念・教育の歴史及び思想、いわゆる「教育原理」の学びを深めるテキスト。

本体
2500円
●254頁



子どもがやる気になる!! スポーツ指導

佐藤善人 編著

さまざまな観点から子どもの「やる気」の引き出し方を提案。いかに子ども自身が楽しんで、やる気をもってスポーツに取り組めるか、その方法とヒントを掲載。

本体
1700円
●200頁



子どもの育ちとケア を考える

杉浦康夫 監
名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 編著

保育・教育学・心理学・芸術・社会福祉・保健・医療・看護といったさまざまな分野から子ども育ちを包括的にみつめる子ども論。

本体
2500円
●240頁



身体文化・メディア・ 象徴的権力

化粧とファッションの社会学
黄順姫 著

化粧・ファッションは私たちになにをもたらしのか。身体文化・消費・象徴的権力の観点から化粧・ファッションを鋭くとらえ、現代日本における再帰性を読み解く。

本体
2500円
●262頁



カラフルな学校づくり ESD実践と校長マインド

住田昌治 著 ●本体1800円 208頁

新版 教育社会とジェンダー

河野銀子・藤田由美子 編著 ●本体2100円 208頁

世界の子どもの貧困対策と福祉関連QOL

日本、韓国、イギリス、アメリカ、ドイツ
黒木保博 監/中嶋和夫・近藤理恵 編著 ●本体3200円 288頁

大学生が本気で考える子どもの放課後

弘前大学生の地域参加とプレイワーク実践
深作拓郎・岸本麻依 編集代表
弘前大学生・教員研究会らぶちる 著 ●本体1700円 160頁

理系教職のための教育入門

東野充成・谷田川ルミ 編著 ●本体2100円 200頁

保育者の危機と専門的成長

幼稚園教員の初期キャリアに関する質的研究
谷川夏実 著 ●本体3200円 176頁

教育の基礎と展開 第二版

豊かな保育・教育のつながりをめざして
高野良子・武内清 編著 ●本体2000円 200頁

男子問題の時代? 錯綜するジェンダーと教育のポリティクス

多賀太 著 ●本体2200円 240頁

●放送大学テキスト



教育社会学概論

岩永雅也

2019年発行 ¥2,700+税

教育の行政・政治・経営

青木栄一・川上泰彦・村上祐介

2019年発行 ¥2,900+税

戦後日本教育史

貝塚茂樹

2018年発行 ¥2,700+税

地域コミュニティと教育

玉井康之・夏秋英房・岩永雅也・

宮田美恵子 2018年発行 ¥2,800+税

現代の家庭教育

田中理絵・天童睦子・東野充成・

遠藤野ゆり 2018年発行 ¥2,500+税

生涯学習の新たな動向と課題

立田慶裕

2018年発行 ¥2,800+税

現代社会の児童生徒指導

古賀正義・山田哲也・田中理絵

金子真理子 2017年発行 ¥3,100+税

子ども・青年の文化と教育

岩田弘三・谷田川ルミ・岡田佳子・富江英俊

熊田博喜 2017年発行 ¥2,600+税

カリキュラム編成論 [改訂版]

田中博之

2017年発行 ¥3,600+税

教育文化の社会学

稲垣恭子

2017年発行 ¥2,600+税

道德教育の理念と実践

押谷由夫・永田繁雄・新井浅浩・諸富祥彦

西野真由美 2016年発行 ¥2,900+税

カリキュラムと学習過程

浅沼茂・奈須正裕・北村和夫・成田幸夫

久野弘幸 2016年発行 ¥2,700+税

学校と法 [改訂版]

坂田仰・岩橋健定・黒川雅子・山田知代

2016年発行 ¥2,300+税

現代日本の教師

油布佐和子・岩立京子・佐久間亜紀

元兼正浩 2015年発行 ¥2,700+税

幼児教育の指導法

師岡章・佐久間路子・田中浩二

2015年発行 ¥2,700+税

人間発達論特論

住田正樹・田中理絵

2015年発行 ¥3,200+税

教育学入門 - 教育を科学するとは -

岡崎友典・永井聖二・富江英俊・加藤理

2015年発行 ¥2,600+税

乳幼児の保育・教育 [新訂]

岡崎友典・梅沢実・井上清美・押元信幸

芦田川祐子 2015年発行 ¥2,300+税

教育の社会学

近藤博之・岩井八郎・木村涼子・中澤渉

大多和直樹 2015年発行 ¥2,700+税

道德教育の方法

堺正之

2015年発行 ¥2,300+税

●ご希望の方に「図書目録」をお送りします。詳しくは www.ua-book.or.jp



一般
財団
法人

放送大学教育振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-14-1

TEL 03-3502-2750

FAX 03-3592-2482

子どもたちの輝く瞳と笑顔が物語る
教育の現在と未来を築く活動を求めます。

「博報賞」

博報賞は、1970年「ことばの力を育むことで、子ども達の成長に寄与したい」

との願いから生まれました。

現在は、「ことば」「特別支援教育」「文化」に関連する5部門で構成されています。

児童教育現場の活性化と支援を目的とし、

草の根的な貢献と今後の活動への可能性がある団体・個人を顕彰しています。

【部門紹介】

国語・日本語教育

特別支援教育

日本文化・ふるさと共創教育

国際文化・多文化共生教育

教育活性化

【賞の内容】.....

★ 博報賞

- 博報賞 正賞 賞状 副賞 100万円 (5部門で20件前後)
- 功労賞 正賞 賞状 副賞 50万円
- 奨励賞 正賞 賞状 副賞 30万円

★ 文部科学大臣賞

博報賞受賞者の中から、各部門1件までに授与されます。

【スケジュール】.....

受付期間: 4/1(月)～6/28(金) 財団必着

●受賞者正式発表: 9月末予定 ●贈呈式: 11/8(金) 東京において

※応募は推薦資格を有する第三者による推薦応募のみの受付です。

詳細については、博報賞HP、推薦要項をご確認ください。

<https://www.hakuhofoundation.or.jp>

博報賞

検索



公益財団法人 博報児童教育振興会

お問合せ先

公益財団法人 博報児童教育振興会「博報賞担当」宛 〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館8階
◎TEL.03-5570-5008(平日9:30～17:30) ◎Mail: hakuhouyou@hakuhodo.co.jp

博報財団
HAKUHO FOUNDATION